

令和7年度第3回国分寺市協働事業審査会 報告

令和7年度第3回国分寺市協働事業審査会において、提案型協働事業の第2次審査としてプレゼンテーションによる審査をいたしました。結果は、下記のとおりでございます。

1 審査概要

日 時 令和7年10月8日（水）午後1時15分から午後4時55分まで
場 所 国分寺市役所5階 第一・二委員会室
審査委員 6名
審査案件 3件

2 審査結果

2件 採択（合格） / 1件 不合格

※詳細は別紙「審査結果一覧」及び「不合格の理由」を参照。

3 審査・選考方法

審査項目を判断基準に照らして評価、合計得点が合格基準点以上の提案を予算の範囲内で高得点順位採択する。

※採択した 2 提案の事業費の合計は予算の範囲内であった。

＜合格基準点＞

出席委員人数×審査項目×3点（どちらかといえば評価できる）

※今回は6名×7項目×3点＝126点

＜審査項目＞

審 査 項 目		内 容
1	事業の目的	市民や地域のニーズ、社会問題や地域課題等を踏まえたものであるか。また、市が関わる必要性が認められるか。
2	独創性・先駆性	提案は独創的かつ先駆性があり、今後の協働事業のモデルとなり得るか。
3	実現可能性	実施体制、実施方法やスケジュールが合理的で、実現可能性は高いか。
4	役割分担	団体と市との役割分担は明確かつ妥当か。
5	協働による効果	協働することで質の高いサービスが提供でき、また、相乗効果・波及効果が期待できるか。
6	費用の妥当性	提案内容を実現するための妥当な経費見積りとなっているか。
7	事業遂行能力	団体には事業遂行上の問題を解決していくための専門性及び経験が十分にあり、また市と一緒に事業を検討し練り上げていく能力があると認められるか。

＜判断基準＞

4点	評価できる
3点	どちらかといえば評価できる
2点	どちらかといえば評価できない
1点	あまり評価できない

4 参 考

国分寺市協働事業審査会委員一覧

(敬称略)

委員種別	氏 名	職 業 な ど	出欠
1号委員	跡部 千慧	東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 社会学教室 助教	出席
同 上	山岸 絵美理	大月市立大月短期大学 経済科 准教授	出席
同 上	岡本 祥公子	認定特定非営利活動法人 サービスグラント 代表理事	出席
2号委員	村越 隆治	政策部長	出席
3号委員	宮本 学	総務部長	出席
4号委員	杉本 守啓	市民生活部長	出席

会 長：跡部 千慧

副会長：村越 隆治

令和7年度募集 提案型協働事業第2次審査の審査結果

■審査結果 2件 採択（合格） / 1件 不合格

■合格基準点 6名×7項目×3点＝126点

提案 No.	事業名称	提案団体	担当課 (協力課)	委託額 (提案総事業 額)	得点/ 満点中	合否	採択・ 不採択	審査項目							合計 得点
								1 事業の 目的	2 独創性・ 先駆性	3 役割分 担	4 協働に よる効果	5 費用の 妥当性	6 事業遂 行能力	7 実現可 能性	
①	公園で行う防災体操教室事業	認定特定非営利活動法人 健康体操指導ワーカーズ	防災安全課	306,006円 (306,006円)	141点 ／168点	合格	採択	21	20	18	19	20	21	22	141
③	ソーシャル・イノベーション・ アカデミー事業	ソーシャル・ イノベーション・ アカデミー	協働コミュニティ課 (政策経営課)	700,000円 (1,030,000円)	109点 ／168点	不合格	-	16	14	18	16	13	18	14	109
④	交流と連携による 地域活性化事業	特定非営利活動法人 エンツリー	協働コミュニティ課 (政策経営課)	1,119,371円 (1,119,371円)	153点 ／168点	合格	採択	24	21	21	22	19	24	22	153

提案 No.	提案③		
事業名称	ソーシャル・イノベーション・アカデミー事業		
提案団体	ソーシャル・イノベーション・アカデミー		
担当課	協働コミュニティ課	協力課	政策経営課
得点	109 点/168 点中		

【不合格の理由】

本提案の地域課題の解決に向けて次世代の新たな担い手を育成するとともに既に市民活動を行っている市民も参加することによって相乗効果を図るという事業目的は評価できます。

しかしながら、特に次の３点を理由に、不採択という結果となりました。

第１に、費用の妥当性及び実現可能性です。費用の妥当性において特に課題があるのは人件費です。質疑応答を踏まえると、実施に係る事務作業等の人件費は、労働には対価を伴うという原則に基づき、更に精査する必要があると考えます。また、実現可能性については、上記人件費の積算からも実施体制に疑問が残るとともに、貴団体の事業説明から具体的な実施内容が見えませんでした。以上の理由によって、費用の妥当性及び実現可能性の評価が低くなりました。

第２に、独創性・先駆性です。審査会では、こくぶんじカレッジ協働事業等との違いを問う質問にご回答いただきましたが、違いが不明確だったと考えます。公費を支出する以上、他事業との明確な違いを、市民が容易に理解できる必要があることから、評価が低くなりました。

第３に、協働による効果です。市との協働である以上は、幅広く市民に還元する必要があります。しかしながら、貴団体の説明では、事業の参加者が貴団体の運営に関わっていくことは示されていましたが、地域活動にどのように関わっていくかの言及はなかった印象を受けました。また、市民活動の更なる活性化に向けた既存団体との連携による相乗効果などの具体的な説明がなかったことから協働による効果に疑問が残りました。

今回は不合格となりましたが、地域活動の新たな担い手の育成は地域課題の解決に不可欠です。今後も継続的に担当課や市民活動団体とコミュニケーションを図り、貴団体の知見を活かして幅広い市民に還元できる実現可能な独創性の高い事業の提案を期待しています。